

Title	活字本『天變地異』
Sub Title	
Author	河北, 展生(Kawakita, Nobuo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1957
Jtitle	史学 Vol.30, No.1 (1957. 7) ,p.74- 74
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19570700-0074">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19570700-0074</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

それ以後では、大名に對する下からの諷刺などとは無關係に、全く庶民の手を離れて、たゞ筋の發展——或は墮落でもある——がみられるだけであつた。従つて、虎寛本では小名狂言となり、「(主)何のかしらかた。あのわうちやく者、どれへ行ぞ。捕らへて呉い。やるまいぞ〜。(シテ・次郎冠者)ア、ゆるされい〜。」と變つてくるのも、當然豫測される筋道なのである。

(昭和卅一年十月十九日稿)

### 活字本『天變地異』

小幡篤次郎は、福澤の良き女房役をつとめ、今日の慶應義塾を築き上げた人物であり、其の著書としては、『博物新編補遺』『英氏經濟論』『生産道案内』等と共に、此處に述べんとする『天變地異』がある。

此書は、慶應戊辰年八月慶應義塾同社識とある序二丁、凡例一丁、目録一丁、本文二七丁計三一丁よりなる四六版の木版本で、表紙は、網目地模様黒色表紙、鼠色縞目に慶應義塾藏版の文字入表紙、及び茶・鼠色縞目表紙の三種類があり、序文、凡例にやゝ相違があるが、本文は大體變化ない様に見受られる。

表紙見返しによると、慶應四年初秋とあり、序が八月になつてゐる點より、慶應四年八月頃に、慶應義塾出版物として發刊されたものであらうと思はれるが、表紙が三種も存する點より、相當

版を重ね、少くとも、西洋事情の表紙の變化と比較してみて、明治七、八年頃迄版を重ねたのではないかと思はれる。

從來はこの木版本のみが考へられていたが、今回入手したのは、僅に木版本より大きく、貝模様の地模様のある茶色表紙に、見返しの繪入刊記、序、凡例を缺き、見返しに目録を置き、本文二十三丁よりなる活字本である。本書は挿繪を全く缺き、字配も、木版本が十九行二十字詰であり、總ルビつきであるのに對し、活字本は十九行二一字詰であり、表紙題箋は、共に木版で『天變地異全』とあるが、木版本が全の字が下に置かれ、相當題箋が長いのに對し、活字本は空白少く、題箋が短くなつてゐる。

此の活字本は刊記なく、その出版年月も不明である。また或は偽書とも考へられないことはないが、偽書を作る程の賣行を見たとは思はれず、今迄我々の目に觸れなかつた點をみると發行部數も餘り多くないものの様に思はれる。

(河北展生)